第九番札所　御誓願　手・足

大日寺 だいにち じ

住 紀美野町毛原宮242
C 073-499-0662

大日寺の起源は定かではありませんが、不動明王をご本尊とし、安置しています。

不動明王は大日如来の使者で、仏法守護の尊です。

また、堂内には阿弥陀如来像も安置しています。

十二世紀後半の作と見られ、漆箔像、切れ長の温和な顔つきで親しみのある優れた仏像のため、昭和五十五年に和歌山県の指定文化財となりました。

脇待は、片膝を立てた比較的珍しい仏様です。

御誓願の由来

不動明王は、仏法守護、衆生保護に絶大な威力を持っていると言われています。

またこの像は、荒々しい岩山にお立ちになり、右手に剣、左手に索（縄）を持っておられることから、手足が丈夫であり、当寺では特に手・足の病の平癒を主なる誓願としています。

御詠歌

大乗の祈る力は　げに岩屋
石の中にも　極楽とある

第十番札所　御誓願　耳

泉福寺 せんぷくじ

住 紀美野町
長谷宮684-1
C 073-499-0245

泉福寺の建立は安永四年（一七七五）正月十六日と伝えられています。

ご本尊の十一面観世音菩薩は、鎌倉時代の作とされています。

境内にある梵鐘は、安元元年（一一七五）、東大寺再興の祖と言われる重源の作で、和歌山県最古の梵鐘であり、国の重要文化財に指定されています。

また、境内の戦没者供養塔は、約三百基を数え、東條英機・山本五十六などの供養塔があります。

さらに、マッカーサー元帥顕彰の碑もあり世界平和を祈念しています。

御誓願の由来

鐘の音は、平安時代より山野に響き渡り、時を告げるとともに、この鐘の音を一度聞けば、難病たちまちにして去り、心安らかにして千里の仏音を聞くことが出来ると伝えられることから、御誓願の「耳」の祈願所とされています。

御詠歌

いく度も　参る心は　あらたなり
るりの流水は　長き谷川

国宝 善福院釈迦堂

住 海南市下津町梅田271
C 073-492-2188

善福院は、建保二年（一二一四）栄西禅師によって創設されたと言われる、広福禅寺五ヶ院の一つです。

広福禅寺は、戦国時代に領主加茂左近の菩提寺となり釈迦堂を本堂として、梅田寺・了東院・吉祥院・観音院・善福院など多数の堂塔建ち並ぶ禅宗寺院の景観を呈してました。

しかし加茂氏の没落に伴い荒廃し、その後は高野山に頼り真言宗に、さらに江戸時代になって、徳川家の命により天台宗になりました。

明治初期までは三ヶ院がありましたが、その後善福院だけになり、広福禅寺本堂である釈迦堂を含めて善福院と呼ぶようになりました。

釈迦堂は、桁（けた）行き三間（けん）・梁間三間（はりまさんけん）、一重裳階（もこし）付き、寄せ棟づくり、本瓦の禅宗様式の仏殿です。嘉暦二年（一三二七）の再建と考えられ、国宝に指定されています。

他の禅宗様式の建物に比べて木割（材木の長さに対する太さ）が大きく、雄大な感じがします。

※天井が高く、広々とした建物の内部には、釈迦如来様が鎮座します。

国宝 長保寺本堂

住 海南市下津町上689
C 073-492-1030

長保寺は、長保二年（一〇〇〇）、一条天皇の勅願により創建されました。

当初は天台宗でしたが、のちに真言宗と変わり、寛文六年（一六六六）に紀州徳川家初代藩主頼宣によって菩提寺となり天台宗に改められました。

江戸時代には、本堂背後の山の斜面に約一万坪の広大な藩主廟所（国史跡）が造営されました。

大名墓所としては全国一の規模です。

また、本堂・塔・大門と三つ揃って国宝の寺は全国でも珍しく、法隆寺とここだけです。